

学芸員なるもの
古美術編 夜鬼じヤコ



所蔵品紹介

田部光子《プラカード》

1961年 | 印刷物、真鍮、墨、塗料、ニス・紙(横) | 86.4×92.8cm

特注の横に、アフリカ大陸の輪郭が線で引かれています。内側には音楽や映画に関する写真印刷物の紙片が貼られ、空隙を黒インクのエスマーク、星条旗を思わせる赤いストライプと星形の紙が埋められています。塗布されたニスはアフリカ大陸に艶を与えながら下に落ちていきます。

本作のタイトルは《プラカード》。この言葉には耳なじみがあるでしょう。デモ行進等でも使用される、主張や情報を示された板のことです。1957年、当時勤務していた岩田屋の労働争議に関わり、その後も労組の動向に注目していた田部光子は、そのプラカードが「とても古くさい」と感じていました。旧態依然としたものに寄りかかる態度こそ、権力に封じこまれる原因なのではないか。世の中は問いたいこと、考えなければならない出来事で満ちている。「おくれげながらも、大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作ってみようか。」1961年、田部は本作作品を制作します²⁾。手で千切られコラージュされた印刷物や描かれたイメージからは、アフリカ諸国の独立やアフリカ系ア

リカ人による公民権運動、ジャズをはじめとする大衆文化に田部が関心を抱いていたことがうかがえます。垂れるニス跡はそこで流れた血を想起させ、口づけの行為の跡に哀悼や祝福の意も読み取れるでしょう。支持体に用いられた横についても、様々な解釈ができそうです。次第に黄ばみ、突けば容易に

穴のあく、けれど意外ほど強い横は、日本古来より現代まで住居に生活に不可欠なものです。日本もわたたちの生活も無関係ではないと言わんばかり。発表当時、本作を見た人が受けた印象と2010年代末を生きるわたしたちが読むそれは同じではないかもしれません。けれど人種差別は根深く存在し、日米関係が重要な主題であることには変わりありません。制作から半世紀以上経つこのプラカードは、今もメッセージを発しているようです。

¹⁾ 田部光子「プラカードのために」(九州通5)(1961年9月10日発行)
²⁾ 《プラカード》は本作を含み5点、そのうち2点が福岡市美術館、3点が東京都現代美術館の所蔵。
※本作品は、「モダンアート再訪-ダリ、ウォーホルから草間彌生まで-福岡市美術館コレクション展」に出品されています。(正路佐知子)

【つきなみ講座】

休館中もつきなみ講座は開催中!ただし、会場は福岡市美術館ではありませんのでご注意ください。事前申込不要、一部を除き参加無料です。受付は開始時刻の30分前からです。

4月21日(土) 15:00~16:00

わたくしの展覧会学②
〜学芸員の妄想、告白します〜

展覧会の企画にまつわる講座の第2回。情報収集やトータルデザインとしての展覧会がテーマだった前回に続き、今回は、エンターテイメントとしての展覧会やオリジナルという概念についての妄想話です。展覧会の見方が変わるかも。
中山喜一郎(当館副館長)
場所:福岡市博物館 講座室2
定員:30名

5月19日(土) 15:00~16:00

藤田嗣治が愛した布たち

「すばらしき乳白色」の画面に裸婦や猫を描いて、一世を風靡した藤田嗣治。彼はまた、さまざまな工芸品、とりわけ布を愛し、描いたことで知られています。藤田嗣治をテキスタイルとの関わりという視点で、みつめなおします。
岩永悦子(当館学芸課長)
場所:福岡市博物館 講座室2
定員:30名

6月23日(土) 14:00~15:30

市美×市博

黒田資料名品展関連講座

福岡藩主黒田家は自らの系譜のルーツを“源氏”に求めました。はたして、その狙いは何だったのでしょうか?福岡市美術館と福岡市博物館の学芸員が美術と歴史それぞれの視点から、謎に迫ります。
宮野弘樹(福岡市博物館学芸員)
場所:福岡市博物館 講座室1
定員:130名

福岡ミュージアムウィーク 2018

皆さん、5月18日が「国際博物館の日」というのはご存知でしょうか?福岡市ではこの日を挟んだ前後10日間、19のミュージアムが入館割引を行ったり、プレゼントを準備したり、イベントを開催したりします。お得に楽しくミュージアムを巡るためのこの機会をお見逃しなく!休館中ですが、福岡市美術館も参加します!

街歩きアートツアー

美術館ボランティアが企画する街歩きツアー。福岡の街中にあるアート作品を楽しみながら歩きます。ツアーの詳細は当館ホームページをご覧ください。

場所:福岡市内 定員:各日15人
申込:事前申込(抽選制)。往復はがき・メールにて、住所・氏名・年齢・電話番号(メールでの申込みの場合はメールアドレス)・希望ツアーの番号を明記し、下記まで。(4月25日必着)
申込先:〒810-0043 福岡市中央区城内2-5 福岡市美術館 ミュージアムウィーク係
E-mail workshop@fukuoka-art-museum.jp

- ① 5月12日(土) 13:30~15:30
「カトリック大名町教会の光と修猷館の隠された名品たち」
- ② 5月13日(日) 13:30~15:00
「探検!博多レトロな画家たち」
- ③ 5月15日(火) 10:00~11:30
「お!こんなところに彫刻が〜天神ぶらぶらアート巡り〜」

講演会&座談会

「美術館の過去、現在、未来
—ミュージアムの可能性を考える—

ミュージアムとは何かを長年研究されてきた文化人類学者・吉田憲司氏を招き、美術館の現状とこれからの可能性について考えます。

日時:5月12日(土)14:00~17:00
講師:吉田憲司氏(国立民族学博物館館長)
場所:福岡市科学館 6階 サイエンスホール
定員:260人 申込み不要、当日受付、聴講無料

- ④ 5月16日(水) 10:00~12:00
「落ち美拾い〜 de博多駅〜」
- ⑤ 5月17日(木) 10:30~12:00
「西南学院大学でアート発掘!」
- ⑥ 5月18日(金) 10:00~14:30
「お宝発見!七隈」

〈ふくおか応援寄付〉

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」(ふるさと納税による寄付)を募集しています。10万円以上ご寄付いただいた方には、特別企画展開会式の招待状(1年分)を、また、福岡市外にお住まいの方で一定額以上の寄付をされた方には福岡市の特産品をお送りします。みなさまからの応援をお待ちします!
問合せ:リニューアル事業課 Tel 092-714-6051

ふくおか応援寄付 検索



ただいま
リニューアル工事中!

2019年3月のリニューアルに向けた工事も折り返し。これまでの工程は解体作業がほとんどでしたが、新しい壁や床、天井の取付作業がいよいよ始まりました。写真は展示室の一角。足場が組まれた中に作業音が響き渡り火花が飛ぶ光景は、どこか別の場所かと錯覚するほどです。
展示室にまつわる大きな変化は、何と言っても2階コレクション展示室Ⅱ(近現代)のスペース拡大です。1万6000点もの当館の所蔵作品を、よりダイナミックな空間で体感いただけるはずです。その他にも様々な点で展示環境が進化中。たとえば、壁はただ単に新しくするだけではなく、耐荷重などのテストを繰り返し、何度も厚みを検討したうえで、ベストな仕様の壁が選定されました。新たな空間で作品たちと出会える日を楽しみにお待ちください。

作品はどこへ?

福岡市美術館の所蔵品が他の美術館・博物館でご覧になれます。

モダンアート再訪

—ダリ、ウォーホルから草間彌生まで— 福岡市美術館コレクション展

- ◎4月7日(土)~5月20日(日) 埼玉県立近代美術館
- ◎6月2日(土)~8月26日(日) 広島市現代美術館
- ◎9月15日(土)~11月4日(日) 横須賀美術館

福岡市博物館 企画展示室2

「市美×市博 黒田資料名品展Ⅶ 黒田如水の文芸」開催中~4月30日(月)
「市美×市博 黒田資料名品展Ⅷ 宇多源氏アイデンティティ」5月2日(水)~7月1日(日)

九州国立博物館 文化交流展示室 第3室

〈基本展示室〉「吉野山茶壺」開催中~5月6日(日)
〈第9室〉「高麗・朝鮮時代の工芸と松永耳庵漆器コレクション」4月10日(火)~6月3日(日)
「高麗茶碗」4月10日(火)~6月3日(日)
〈第10室〉「特集展示 茶の湯を楽しむⅦ 博多文楽と黒田家の茶道具」4月10日(火)~6月3日(日)
〈第7室〉「カンボジアの裂」4月10日(火)~6月10日(日)

福岡アジア美術館 アジアギャラリー

「異境にて—日本作家の見たアジア」開催中~4月17日(火)

ESPLANADE 191

福岡市美術館 季刊誌

エスプラナード

191号

April, 2018

学芸員のしごと

最近「キュレーター」という言葉でも知られるようになった、学芸員という仕事。学芸員にはどういったらなるの? ふだんはどんな業務をしているの? どんなことを考えているの? 美術館の一翼を担う学芸員の仕事をフィチャーします。

後藤恒 古美術係

①古美術の担当をしています。福岡市美術館にはアジアの幅広い古美術コレクションが収蔵されています。それらを、館蔵コレクションを紹介する展示室(リニューアル前は「常設展示室」と呼ばれていた)で1~2ヶ月ごとにテーマを変えて総入れ替えをするのですが、都度新しい企画テーマを考え、企画内容に沿った作品選定、調査、解説原稿、レイアウトを作ることが最も基本的な仕事と言えます。大小問わず、展覧会を企画する時には、様々な素材(作品の情報)を集めて調査・研究しながら、展覧会を組み上げていきます。それは、食材を集めてメニューを考え、味付けや器を考える料理人の仕事にも似ているように思います。同じ素材を使っても、伝統料理と創作料理とは全く違うものになるのと同様に、学芸員の企画次第で同じ作品の見え方も大きく変わります。ちなみに私は、料理も展覧会企画も「仕込み」は得意なのですが、いつも味付けが濃くなって、なかなか上達しません(笑)。

②設計や建築の会社の人たちと、展示室の最終的な設計のツメの作業をおこなっています。壁の色、巾木の高さ、来館者の動線など、決めることが山ほどあります。図面や素材サンプルといった情報から、まだ存在しない展示空間を想像する力が必要で、責任の重さに夜も眠れない日があるほどです。

③14年です。もともと絵を描くことは好きでしたが、大学の学部時代は東洋史を専攻。卒論指導をしていただいた恩師から「君がやりたいのは東洋史ではなく、東洋美術史だよ」と言われて、美術史の世界へ。仏教美術の研究に動しむほどに将来への不安と危機感が募る中、美術史で食べていけるなら世界中どこへでも、と覚悟を決めていたところ、最も近所にあった福岡市美術館が採用してくださいました。

④「てのひらのほとけ インドシナ半島の博仏」



「てのひらのほとけ」展にかかるヤンゴン国立博物館(マンマー)での蔵品調査風景

一口に「学芸員」といっても、それぞれに専門分野があり、学芸員になった動機もさまざま。美術へのアプローチも違います。福岡市美術館の4人の学芸員に尋ねてみました。

質問

- ①ふだん担当している仕事はなんですか?
- ②リニューアルのために担当している仕事は?
- ③学芸員歴は? どういう過程を経て学芸員になりましたか?
- ④これまでに学芸員の仕事で、一番ワクワクしたエピソードは?
- ⑤反対にこれまでにした大きな失敗は?
- ⑥想像していた学芸員像と、なった今感じる学芸員像に違いはありますか?
- ⑦仕事のためにやっていることは?
- ⑧これから取組みたいことは?
- ⑨学芸員という仕事の喜びはどのような点にありますか?
- ⑩学芸員に必要な資質とは?
- ⑪福岡市美術館の所蔵作品で、偏愛作品とその理由は?

(2008年)は、初めて担当した自主企画展ということもあって思い出深いです。東南アジアで、の長期にわたる調査はワクワクとドキドキの連続で、出品者をはじめ多くの方々のサポートをいただきました。本展出品作品の多くは、その後当館に寄贈され、国内では珍しい東南アジア仏教美術コレクションとして知られています。

⑤上記とは反対に、出品者を怒らせてしまい、開催が危ぶまれたこともありました。自分の企画意図が、出品者と共有できていないことに気づいていなかった。コミュニケーション不足です。ある程度経験を積んだ頃であり、少し思い上がりもあったのかもかもしれません。上司からは「時間をかけて、しっかり対話をして、賃していくださる方の思いを汲み上げなさい」と言われ、落ち着きを取り戻しました。結果的には開催にこぎつけ、その方からもお褒めの言葉をいただくことができました。

⑥大学の担当教官からは「40歳になる前に一度倒れる」ほどの激務だと聞かされていたが、今のところ大丈夫ですね(笑)。学芸員になる前には「モノを扱う仕事」だと思っていたが、なってみると「人と付き合う仕事」でした。

⑩資質というのではなく、「料理」の腕を磨くことでしょうか(笑)。

⑪いろいろありますが、いまは《青磁神亭壺》ですね。3/25まで九州国立博物館で展示されていたのですが、「やっぱりいいなぁ」としみじみ見入ってしまいました。

正路佐知子 近現代美術係

①近現代美術の担当をしています。福岡市美術館の近現代美術コレクションの数は、超有名作家の作品を含む約1万2000点。そのなかから作品を選び、テーマを定め、新たな見方や魅力を伝えるコレクション展示を構成する仕事で、まずあります。企画展に関しては、私は

近現代美術のなかでも比較的新しいところを専門としているので、自分と同世代の作家の活動を紹介したり、作家と一緒に展覧会をつくっていくことが多いですね。現代アートの場合、評価が定まらない作品を扱うことがしょっちゅうです。だからというわけではないですが、なぜこの展覧会をここでおこなうのか、なぜこの作家を紹介するのか、ということに自覚的であらねばいつも肝に銘じています。



「歴史する!」展出品アーティスト・大木裕之さんと展示室にて

②昨年は半年間、福岡市の文化振興課にも勤務しましたし、この休館期間中は普段ではありえないいろいろな経験をしています。

③前職も入れて学芸員歴11年です。幼い頃から絵を描くのが好きで、中学生までは漫画家が美術の先生になりたかったのですが、最終的に美術史を学べる大学に進学しました。そこでフェミニズム美術史の薫陶を受け、もの見方が一変するという体験をしました。少し説明すると、「美術史の歴史を記述してきたのは誰なのか」「なぜ偉大な女性芸術家はいなかったのか(⑥リンダ・ノリン)」 「美術の中で女性はどのように表されてきたのか」という問いからはじめていくんです。それは、正史として与えられた歴史を再考することでもあります、社会における美術のあり方を見つめ直すことでもあります。学生時代は両大戦間期の美術を研究していて、休日は講演会や研究会、他校の講義に潜っては多種多様なアプローチの研究を聴講していました。そのなかで、世間と研究のあいだの大きなギャップが気になってきて…社会と美術をつなぐ場でもある美術館でなら、自分にもできることがあるんじゃないかと思っただんです。それからは学芸員への夢を胸に秘めつつ勉強を続け、美術館インターンをしながら全国各地の美術館を受験し、ここに来る前もミュージアムで働いていました。並行して、当時ドイツを拠点にしていたペインターの展覧会に携わる機会を得て、そのとき初めて同時代作家とじっくり接し、現代アートにハマっていききました。そんな時、福岡市美術館の募集を知り、いまに至ります。

④やはり展覧会をつくるのが楽しいですね。ハイになったり、時にはヒリヒリするような思いもする。「仕事が恋人」なんて言ったりしますが、まさにそれ。で、会期が終了しても展覧会は様々な形で残っていくものなのですが、過去の恋心も全部ひきずっている気もします。

⑥想像していた以上に人と接する機会が多いです。そのおかげで随分鍛えられました。

⑦休日はたいてい展覧会巡りをしています。福岡の作家たちの活動を押さえつつ、九州外はもちろん、時には海を越えて作品を見て作家に会ってまわります。仕事のためというより、アートに触れることが元気の源です。

⑧2014年に「想像しなおい」、2016年に「歴史する!」という現代作家のグループ展を企画しましたが、こういう展覧会は今後も続けていきたいです。また、ジェンダー、フェミニズムの視点は学生時代からずっと自分の基盤にあるので、いつかちゃんと企画につなげたいと思っています。

⑨何かが生まれる現場に立ちあえるところかな。

⑩アートへの愛と情熱、そして敬意なくして、この仕事はつとまらない。「学芸員っぽくない」とよく言われるし、実際そうだなと思う私に資質を語る資格などないのですが、これだけは自信を持って言えます。

⑪1点に絞るなんて無理です!あ、でも以前エスプラ誌上で同じ質問に対して挙げた作品を、今号の所蔵品紹介で取りあげました。

渡 抜 由 季

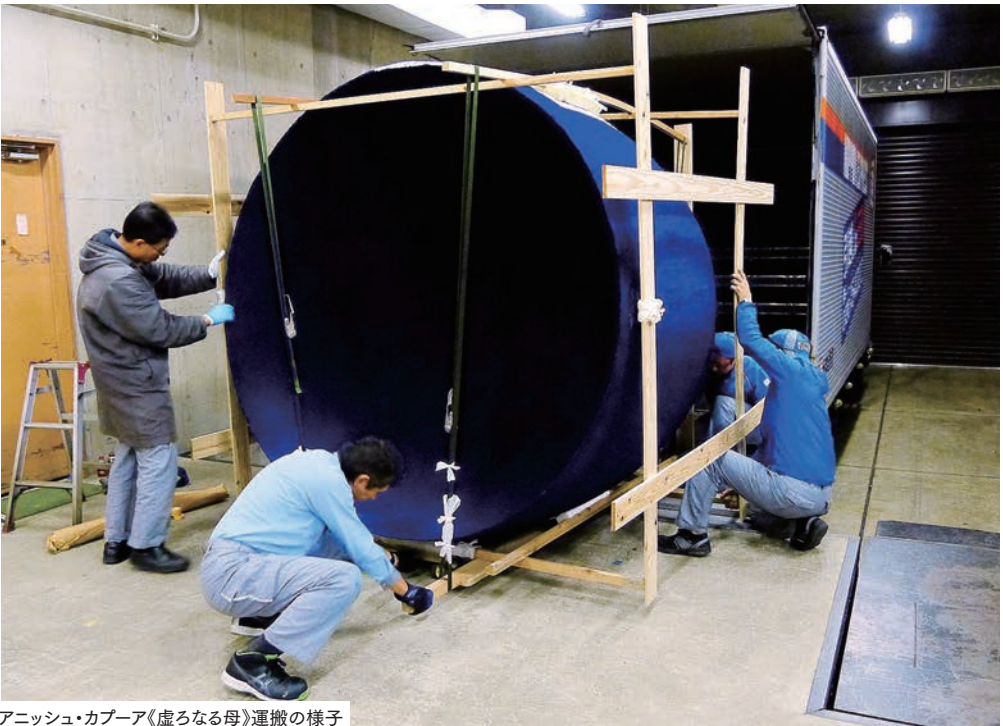
近現代美術係 保存修復担当

①全国の美術館でも珍しい、コンサバターと呼ばれる作品保存や修復の専門職に従事しています。保存管理業務の9割は、環境管理に関するもの。作品が置かれる環境を整えることで、損傷を予防します。残り1割が、修復に関するもの。修復候補のリストをつくり、優先順位を決め、他の修復家や施設と連携をして修復します。美術品は、声を上げない患者のようなものなので、状態の見極めが大切です。

②いま福岡市美術館の作品は、様々な施設に預かってもらっています。その状態を定期的に調べるのが私の仕事です。もちろん、作品がおかれる環境が適切かどうか調査の準備もしています。そして美術館の改修が終われば、作品の引っ越しが待っています。なにしろ1万6000点もあるので、い

まからドキドキです。

③現在6年目です。東京の大学で油彩を描いていましたが、大学院で保存修復に進路を変えました。作品は表に出るものですが、地道にやっていくことで結果が出る黒子の立場にもともと興味を持っていました。卒業後は国立文化財機構東京文化財研究所で、非常勤研究員として勤務。発展途上国の遺産修復に携わりました。この時は、粘土板文書や壁画などの考古遺物も対象でした。なかなか体力的に厳しい職場でもありましたが、楽しかった。有期雇用だったので次はどうしようかと考えていた時に、福岡市美術館の募集を発見。実は保存管理専門での学芸員は少なく、全国的美術館にまだまだ十数名程度。「チャンス!」と応募しました。



アニッシュ・カプア《虚ろなる母》運搬の様子

私の場合は、学芸員になりたいというより、興味の先に学芸員という仕事が見れた感じです。

④アニッシュ・カプアの《虚ろなる母》を運搬した時です。大きなファイバー・ガラスの立体造形にブルシアンプルーの顔料が乗っているという、非常に難しい作品でした。どうやって運ぶか検討に検討を重ねて、以前の職場で考古物の修復に使った方法を応用しました。うまくいってホッとしました。作品それぞれの素材や状態に合わせた方法を探して、何か発見があると嬉しくなります。

また先日、1年かけて準備したシンポジウムを開きました。美術館だけでなく大学からも登壇いただき、事例報告をたくさんおこなうことができました。修復を是とする立場だけでなく、経年変化を劣化とは捉えない、という考え方もあるのではないかと、という意見も発表され、刺激的な時間になりました。こういう取組みは、今後も継続的におこないたいですね。

⑤とにかく疲れがたまっていた時、ちょうどやっていた仕事を完了した夢を見ました。すっかり自分の中では現実になっていて、上司に尋ねられて堂々と「終わってます!」と答えたことがあります(笑)。後が大変でした。

⑥学芸員は、調査研究をする仕事でもあります。思った以上に人とコミュニケーションをとる仕事なんだと認識を改めました。展覧会をつくったり、ボランティアさんと一緒にしたり、つきなみ講座を実施したり。

⑦意外に体力勝負な仕事なので、定期的に運動しています。

⑧保存管理の仕事は、学問としても新しく、少しずつ浸透してきました。今後は各地の保存管理を専門とする人たちとネットワークをつくり、連携を深めたいです。

⑨収蔵庫に入り、ガラス越しではなく実際に触りながら目の前で作品を見ることができるのは、学芸員の特権。素材や技法を間近に見て、「なぜ作家はこう表現したのか?」と想像するのは楽しいものです。

⑩客観性と作品への敬意だと個人的には思いますが。作品を残すことを考える際、素材の問題の前

⑦意外に体力勝負な仕事なので、定期的に運動しています。

⑧保存管理の仕事は、学問としても新しく、少しずつ浸透してきました。今後は各地の保存管理を専門とする人たちとネットワークをつくり、連携を深めたいです。

⑨収蔵庫に入り、ガラス越しではなく実際に触りながら目の前で作品を見ることができるのは、学芸員の特権。素材や技法を間近に見て、「なぜ作家はこう表現したのか?」と想像するのは楽しいものです。

⑩客観性と作品への敬意だと個人的には思いますが。作品を残すことを考える際、素材の問題の前



アニッシュ・カプア《虚ろなる母》運搬の様子

に、まずはコンセプトや表現を優先するべきだということは、いつも自分に言い聞かせていることです。

⑪すごく難しいですが、最近印象が特に残っているのが、ルイ=ジョゼフ=ラファエル・コラン《海辺にて》です。縦297.0cm、横446.0cmもある大きな作品で、運ぶ時に巻かなければならなかったので(詳しくはエスプラナード186号を参照)。これまでに何度も巻かれていたことを知り、つい感情移入をしてしまいました。

上 野 真 歩

教育普及係

①教育普及を担当しています。ワークショップやイベント、美術館の外で実施するアウトリーチ活動などをおこない、美術を通して人々の生活を豊かにしていくのが教育普及の仕事です。福岡市美術館では、当館所蔵作品の複製や実物作品を持参してのアウトリーチ「どこでも美術館」や、親子を対象にした「ファミリー DAY」、60歳以上の方を対象にした「いきヨウヨク講座」などを実施しています。またボランティアに関わる業務も教育普及の仕事です。今は当館ギャラリーガイドボランティアが企画した、街歩きアートツアーの準備と一緒にしています。

③実は入ったばかりで、学芸員歴6ヵ月です。もともと学芸員になりたい気持ちはあったものの、高校卒業後に2年間調理師専門学校へ。その後、愛

知県立芸術大学に入学。グラフィックデザインの勉強をしながら、デザイン会社でアルバイトをしていました。このままデザイナーになるのかと思っていましたが、webデザイン系の会社の最終面接で、「とにかくデザインだけしていればいい」というようなことを言われ、「あれ?私がしたかったことって、デザインだけ?」という疑問が湧いてきて。やっぱり美術に携わる仕事をしたいと、福岡市美術館の教育普及の仕事に応募しました。

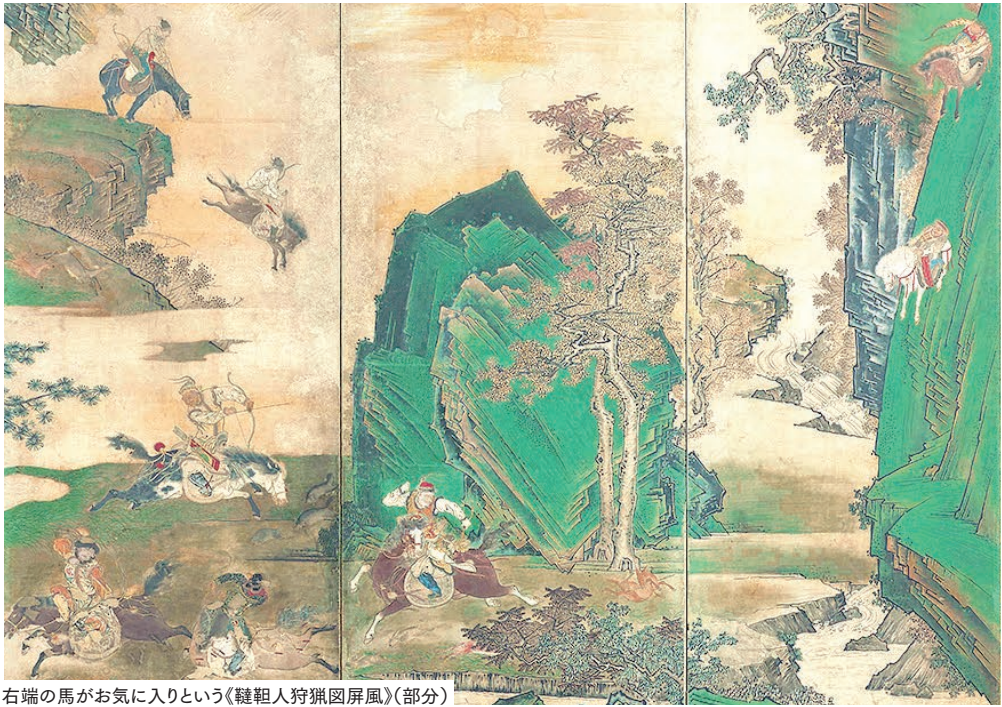
⑤アウトリーチ活動の「どこでも美術館」で小学校を訪問し、ファシリテーター(ワークショップで参加者を導く役割)を務めた時のことです。授業内容は頭に入っていたにも関わらず、話のつなぎ方が下手クソで子どもたちをうまく引き込むように話すことができませんでした。先輩から「落語を聞くといふ」とアドバイスもらったので、今度聴いてみます。

⑥想像どおりだったのは、「学芸員は雑芸員」という言葉のとおり、仕事が本当に多岐にわたることです。特に市の施設なので、企画を実行するまでにたくさんの手続きがあることに驚きました。一方、想像と違ったのは、学芸員の皆さんが人間味に溢れていることです。「教科書に載っているような絵だけを真面目に研究しているのかな?」と思っていましたが、自分の興味に忠実でおもしろい人がたくさんいます。

⑦勉強と称して美術館巡りをしています。古美術が好きで…というか、いま流行りの刀剣乱舞が好きなんです。最近は何司司港で3日間だけ展示された太刀《大俱利伽羅》を観にいきました。雰囲気があって映りがすごく綺麗でした。デザインをしているときからのクセですが、美術品だけでなく何を見ても、「これは何かの仕事につながりそうだ」とポジティブに考えています。

⑧福岡市美術館に所蔵されている作品を使った、ユニークなワークショップを企画したいです。モリス・ルイス《コングヴァージェント》は、絵の具を垂らしたような抽象的な絵なのですが、使用した素材や描き方についての論文をみつけました。ぜひ近いうちに、これを元にした再現ワークショップを実現させたいですね。

⑨学芸員は、決まった仕事のほかに、自分の姿勢次第でいろいろな仕事ができるのが魅力です。作品と対峙することもできるし、外に出て人と接することもできる。これからどんなことができるかを考え



右端の馬がお気に入りという《韃靼人狩獵図屏風》(部分)

ると、楽しみです。

⑩感性だと思います。人が持つそれぞれ違う感性をどんどん発揮していくと、おもしろい美術館になるのではと考えています。自分の感性を大切にしていきたいです。

⑪《韃靼人狩獵図屏風》が好きです。崖から駆け下りてくる馬の姿が、かわいいんですよ。

学芸員のしごと

journal

多岐にわたる学芸員の仕事の一端にふれるべく、仕事の現場に密着しました。

12月28日 | 10:00 | インスタレーション会場の下見

山口洋三学芸員／吉田曉子学芸員

この日は、現代美術家の藤浩志さんと待ち合わせて、舞鶴公園を散歩…ではなく、作品を展示する場所の下見。桜の咲く時期に合わせて、6人の作家を招いて展示をおこなう「福岡城まるごとミュージアム」は、今年初めての試みです。会場の候補である潮見橋、下之橋御門、多間橋を回ります。「ここに電気を引こうとすると、どういう方法がありますか?」「天井からモノは吊るせるのかな?」「2階は強制的にどのくらいの重さまで大丈夫ですか?」。藤さんからは具体的な質問が飛び出します。それに対して、文化財の担当者を確認しながら答えていく、山口学芸員と吉田学芸員。歴史的なバックボーンを聞き、実際の環境に身を置くことで、藤さんの中で内容が固まっていく様子が伺えます。その後、事務所では図面を元に、さらに具体的な打ち合わせがおこなわれました。動線はどうするか? 搬入は?作品のケアはどのようにおこなうか?設営には人手がどのくらい必要?ひとつの展示を実現させるために、決めなければならないことはたくさん。作家の意図を汲みながら、様々な制約の中でそれを実現させる手段を考えることは、学芸員の大きな仕事のひとつです。

※福岡城まるごとミュージアム

会期:3月30日(金)～4月8日(日)

場所:福岡城跡[舞鶴公園]

開場時間:10:00～17:00(入場は16:30まで) ※多間橋中庭会場のみ夜間開場(18:00～22:00)

入場料:無料 ※多間橋中庭会場のみ18時以降は福岡城さくらまつりチケットが必要(別売)

出品作家:草間彌生、藤浩志、岡本光博、スーザン・ヴィクター、クルバ・マーヒジャー、ヤルー

問い合わせ:まるごとミュージアム実行委員会事務局(福岡市経済観光文化局文化振興課内)

TEL 092-711-4969

http://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/bunka/charm/cultural-program.html

1月20日 | 15:00 | 聴講者を前に講座を実施

富田太樹学芸員

この日は、月に一度、福岡市美術館の学芸員が自分の仕事や関心について語る「つきなみ講座」。1月の担当は富田学芸員で、テーマは「描かれた『自然』－聖地・名勝、そして風景－」です。日本における風景画がいつから始まったのか?というクイズから始まり、宗教的な意味合いを持っていた山や島といった風景が、観光的な名勝として描かれるに至る流れはどのようなものだったのか?さらに映画《君の名は。》を例に上げながら、現代の聖地巡礼にまで及ぶ、時代もジャンルも幅広い射程を持った話が繰り広げられました。

さらにこの日は、続けて福岡アジア美術館でおこなわれている展示「異境にて－日本作家の見たアジア」(開催中～4/17まで)でのギャラリートークも実施。日本を出て異国の風景を描いた作家の表現に迫りました。

各学芸員が年に1～2回担当する「つきなみ講座」。学芸員による展示解説はよくありますが、必ずしも開催中の展覧会に関連の無い講座が実施されているのは、実は全国的にも珍しいのです。学芸員にとっても自分の研究を軸にしながら、興味の範囲を広げ、資料を収集し、深掘りするまとないチャンスだそう。この「つきなみ講座」が展覧会のアイディアにつながることも!

※次回つきなみ講座の案内は次ページをご覧ください。

2月8日 | 10:00 | 所蔵作品の貸出の立会い

後藤恒学芸員

この日、後藤学芸員は小郡市にある九州歴史資料館にいました。ここで行われる企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」のために、福岡市美術館が所蔵する薬王密寺東光院のご本尊《薬師如来立像》や《十二神将像》の展示作業がおこなわれるからです。専門の美術品取扱作業員が、慎重に慎重を重ねて梱包を解き、陳列していきます。仏像を運ぶのは大変難しく、オーダーメイドの木枠が使われていました。学芸員はコンディション・レポートと呼ばれる、作品の材質、構造、状態などを記録したカルテのようなものを手にしています。作品に新たについた傷はないか、取り扱う際に触ってはいけない部分はないかなを確認するためです。九州歴史資料館の担当学芸員・井形さんによると、「仏像は単なる彫刻ではなく信仰の対象であるため、まるでお堂の中にいるような、清冽な気持ちになれるような展示に」と企画したそう。ご本尊を守るように《金剛力士像》、さらにその周りに《十二神将像》が控えます。それでいて、学術的にも平安時代から南北朝に至る流れが分かるように工夫されています。

※企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」

会期:開催中～4月11日(水)

場所:九州歴史資料館 第1展示室(福岡県小郡市三沢5208-3)

料金:一般200円(150円)、高大生150円(100円)、中学生以下、満65歳以上の方、障がいのある方とその介護者1名は無料(土曜日は高校生も無料) ※()内は、20名以上の団体料金。

問い合わせ:九州歴史資料館 TEL 0942-75-9575

質問 ①ふだん担当している仕事はなんですか? ②リニューアルのために担当している仕事は? ③学芸員歴は? どういう過程を経て学芸員になりましたか? ④これまでに学芸員の仕事で、一番ワクワクしたエピソードは? ⑤反対にこれまでにした大きな失敗は?

⑥想像していた学芸員像と、なった今感じる学芸員像に違いはありますか? ⑦仕事のためにやっていることは? ⑧これから取組みたいことは? ⑨学芸員という仕事の喜びはという点にありますか? ⑩学芸員に必要な資質とは? ⑪福岡市美術館の所蔵作品で、偏愛作品とその理由は?

people